

JHL NEWS

No. 1

2010年8月23日

●発行
日本ハンドボールリーグ委員会
委員長・高村 誠一
東京都渋谷区神南1-1-1
電話 03-3481-2494

上位陣の実力接近で混戦模様

～第35回日本ハンドボールリーグ 9月4日に熱戦スタート!～

第35回日本ハンドボールリーグの開幕が間近に迫ってきた。9月4日熊本での男子・トヨタ紡織九州-琉球コラソン戦を皮切りにロングランの戦いがスタートする。

男子8、女子6チームが参加するレギュラーシーズンの男子上位4チーム、女子3チームによるプレーオフ（3月12、13日、東京・駒沢体育館）で優勝が争われる。

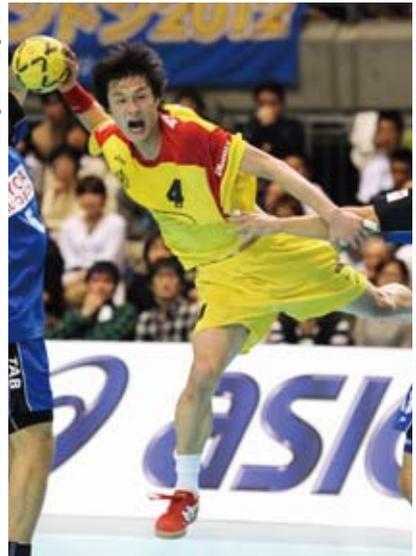
男子2回戦、女子3回戦総当たりで行われるレギュラーシーズンは、途中で千葉国体（9月30日～10月4日）、全日本総合（男子・12月22～26日、女子・1月19～22日）のほか、中国でのアジア競技大会（11月12～27日）、カザフスタンでのアジア女子選手権（12月19～24日）、スウェーデンの世界男子選手権（1月13～30日）と国内外の大会によるブレイク期間があり、とくに女子は11月から来年2月5日まで試合のない変則日程となっている。

レギュラーシーズンを全14週で終えるコンパクトな編成で争われる今リーグ。前回はリーグ1位の大同特殊鋼が5連覇を達成、女子はリーグ3位のソニーセミコンダクタ九州が逆転で初栄冠を獲得した。プレーオフ決勝は、ともに1点差の激闘で会場の興奮がエスカレートした。

まずはプレーオフをめぐる争いに注目が集まるが、男子はV6を狙う大同をはじめ、トヨタ車体、湧永製薬、トヨタ紡織九州の前回4強に、大崎電気を加えた5チームによる切符争奪戦となるのは必至。とくに前回5位に甘んじた大崎はスペインでの武者修行から戻った宮崎のほか学生界から有力ルーキーを迎え入れ、7月の全日本実業団選手権で優勝を飾って好スタートを切っている。チームの大黒柱だった白元結が戦列を離れた大同がどんな戦いぶりを見せるかで大きく戦局が動きそう。ともあれ例年に増して激しい順位争いが展開されるのは間違いない。第2グループと目される豊田合成、琉球コラソン、北陸電力も力の差は紙一重で、競り合いの中でどこまで上位との差をつめるかに期待がかかる。

女子はソニー、北國銀行、オムロンが今シーズンも上位3強を形成しそうだ。この3チームのプレーオフ進出は3年連続のこと。ソニーは全日本実業団選手権も優勝して絶好調だが、北國、オムロンもライバルの意地にかけて進撃ストップを図るはずだ。いずれにせよ3チームによる激しい先陣争いから目が離せない。このあと広島メイプルレッズと三重バイオレットアイリスの2チームが追走する図式となるが、両チームが上位陣から白星を奪う展開になれば、さらに順位レースはもつれたものになってくる。HC名古屋は連敗記録（現在51）からの脱出が大目標となる。

いきなり第1週では、大同特殊鋼に湧永製薬が挑むほか、大崎電気-トヨタ車体の強豪同士が激突。女子もソニーセミコンダクタ九州がオムロンを迎え撃つ注目カードで開幕。そのほかの試合も実力接近で白熱した戦いが繰り広げられそうだ。



④6連覇を狙う大同特殊鋼・末松⑤前回初優勝を遂げたソニーセミコンダクタ九州・張

第1週の日程

9月4日(土)	神奈川	横浜文化体育館(JR京浜東北・根岸線関内駅徒歩5分)	14:00～	(男)	大崎電気×トヨタ車体
			16:00～	(男)	大同特殊鋼×湧永製薬
	熊本	山鹿市総合体育館(九州産交バス「山鹿バスセンター」下車、車10分)	13:30～	(男)	トヨタ紡織九州×琉球コラソン
			15:55～	(女)	オムロン×ソニーセミコンダクタ九州
9月5日(日)	福井	北陸電力福井体育館フレア(えちぜん鉄道観音町駅徒歩5分)	13:00～	(女)	北國銀行×広島メイプルレッズ
			15:00～	(男)	北陸電力×豊田合成
	三重	鈴鹿市立体育館(近鉄名古屋線白子駅バス「体育館前」下車徒歩5分)	14:00～	(女)	三重バイオレットアイリス×HC名古屋

V6 狙う大同に大崎、車体らが絡む

男子



大同特殊鋼

男子リーグ記録の6連覇に挑む大同特殊鋼。焦点はなんといっても前回限りで戦列を離れた白元喆の穴をどう埋めるかだ。攻守にわたって抜群の技量を誇った大黒柱の代役を務めるのは容易ではないが、末松、武田、岸川、地引らの奮起はもとより、千々波、渡久川、山城、野村、GK東ら中堅、若手陣のさらなるレベルアップでカバーしたいところ。新体制となって『個の自立』をテーマに掲げてきた清水監督は「リズムが悪い時にどれだけ踏ん張ることができるかが勝負の分かれ目になる」と厳しい戦いに臨む決意を新たにしている。



トヨタ車体

前は初のリーグ2位となり、プレーオフ決勝では大同と1点を争う激闘を演じ、準優勝に甘んじたとはいえず、強烈な存在感を示した。鍛え抜かれたフィジカルの強さをベースにして戦うのは今回も同じ。門山、高智、銘苅、北出、香川、石戸ら重量級のバック陣に、新人ながら攻撃のテンポを変えられる木切倉が加入したのはプラス材料。ディフェンス力を増したポスト藤田、サイド崎前、鶴谷、佐々木らの力も計算できる。GK陣は木下、甲斐のコンビにベテラン坪根が控える。コンビプレーを織り交ぜたスタイルが確立できればグッと頂点が近くなる。



湧永製薬

11年連続プレーオフ出場とコンスタントな実力には定評がある。ディフェンスの中央を福田、今井、山中、木村といった190cmクラスの大型選手で形成する“湧永山脈”は今年も健在。松村、志水のGKコンビを軸にした手堅い守りに加え、攻撃ではエース東長濱、ベテラン古家、新鋭・谷村らが積極的に得点を狙い、ポスト、サイドとの連携で勝機を見出していく構え。監督、コーチを含めた16人体制とあって、長丁場のリーグでケガなどのアクシデントをどう乗り越えていくか、コンディショニングのいかんもチーム浮沈のカギを握る。



トヨタ紡織九州

新キャプテン村上（秀）、呉相民、石黒、GK松野らベテラン陣に中島、藤山、海道らのエネルギーあふれる攻守を織り交ぜ、ハイスピードなハンドボールを展開。7月の全日本実業団では、昨シーズン限りで引退した阪、鶴田のセンターバックが抜けたことで得意とする4:2ディフェンスが仕上がらず、3:2:1シフトを主体とした戦いを余儀なくされた。今リーグから守りの要として期待される西端、松信の成長が不可欠。60分間フルに変則ディフェンスでプレッシャーをかけ、走りきることができれば2年連続の旋風が期待できる。



大崎電気

6年連続のプレーオフ進出を逃した前回の屈辱を晴らすべく心機一転。シーズン初めの全日本実業団に優勝を遂げ、絶好のスタートを切った。2年目を迎えた岩本監督のもと『Continue（継続）』をテーマとして“For the TEAM” “Thinking HANDBALL”を旗印に掲げて今リーグに臨む。キャプテン永島をはじめ、GK浦和、前田、豊田、猪妻、横地、岩永、小澤といった新旧のメンバーに、スペインでの武者修行で一段とプレーに輝きを増した宮崎、そして東長濱、石川らのルーキーが加わる布陣は豪華。6年ぶりのV奪還へ前進あるのみだ。



豊田合成

リーグ参入10年目を迎えた昨シーズンは過去最高の6位とランクアップ。さらなる躍進をめざす今リーグに向け、畠中ヘッドコーチは「チームを上げたい」と意気込みをみせる。リーグで最も若い陣容ながら、登録メンバー20人中14人が大卒メンバーとなり、高い技術、経験を持つプレーヤーが増え、戦力に厚みが増した。キャプテン中村、エース今村を中心に、成長著しい中島、芳仲、森光らで勝負を挑む。センター候補としてルーキー野田の加入もチームの刺激剤に。課題のディフェンス面に安定感を加え、上位陣を脅かす存在になりたい。



琉球コラソン

今シーズンも選手1人ひとりがコートでのプレーだけでなく、チーム運営にも尽力しながら、果敢なチャレンジを続ける。前は2勝1分11敗の7位。上位陣からは勝点を奪えずに終わったが、攻守ががっちりとかみ合った試合は、3点差、5点差といったゲームを展開。こうしたクロスゲームをモノにしたり、引き分けに持ち込んだりできるかがポイントになる。前は相手のマークに苦しんだ村山、高田、水野裕紀らが奮起し、サイドでグンと成長した志慶真やトヨタ自動車から移籍のポストマン栗崎らとの力を絡めて飛躍を期している。



北陸電力

左腕エース・桜井をケガで欠いて開幕を迎えた前は、ピンチに不可欠な一体感を醸し出せないまま、スタートから苦戦の連続。浮上のキッカケをつかめず、1分13敗で最下位に終わった。苦しいシーズンを味わったが、今シーズンも見すえて戦ったことで、着実に戦力の底上げに成功。7月の全日本実業団でも豊田合成を破り、幸先のいいスタートを切っている。成長著しい長身ディフェンダー石塚の故障からの回復具合が気かりだが、2年目のGK廣瀬やルーキー切越も台頭の気配。取り戻した一体感を全面に押し出してリベンジを誓う。

“上位3強”は激しい競り合い必至

女子



ソニーセミコンダクタ九州

前回はレギュラーシーズン3位からのプレーオフ進出だったが、プレーオフでオムロン、北國銀行を撃破して悲願の初優勝。プレーオフ開催16回目にして、初めてレギュラーシーズン3位から勝ち上がったの女王と、新しい歴史を作った。リーグ初制覇で得た自信は大きく、7月の全日本実業団でも初優勝。田中、張素姫ら経験豊富な面々に、長野、高栖、工藤らの中堅や高橋、黒木らの若手の力がミックスされて戦力は充実。郭恵静監督の要所でのポイントを押さえた采配も光る。このまま一気に女王の座を不動のものとするか注目だ。



北 國 銀 行

前回のレギュラーシーズンは12勝1分2敗、直接対決でも1勝1分1敗で並んだオムロンを対戦間の得失点差で上回り1位通過でプレーオフへ。決勝でも優位に試合を進め、悲願の初優勝を目前にしなが、ソニーに逆転負け。「今回こそは!!」の執念にあふれるシーズンとなる。エース上町や守護神・田代、前回、ベストディフェンダー賞の中村やベストセブンの横鳴ら、充実の現有戦力に加え、リーグ復帰の屋嘉（元オムロン）らも加え、戦力はさらに厚みを増した。地力を信じ、接戦を勝ち切って、最高のフィナーレを迎えるのみだ。



オ ム ロ ン

5連覇をめざした前回は、プレーオフ準決勝でソニーに完敗。そこまで全日本実業団、国体、全日本総合とシーズンのタイトルを手にしてきた輝きも一気に失ってしまった。その屈辱から新たなスタートを切る今回は、洪廷昊、坂元、勝田ら、4連覇を支えたベテランが引退して迎えることになる。勝負所の経験や試合の中での相手への対応、ベース配分といった点で不安は残るものの、顔ぶれは藤間、藤井、東濱、巻、石立ら日本代表の中核となる選手ばかり。引退者の穴を感じさせないほどに個々が自立し、再び女王の座に返り咲くのみだ。



広島メイプルレッズ

イズミ時代を含めリーグ7連覇を果たした時代をもう一度と、着々と戦力を整える段階。前回は5勝10敗の4位。上位3強とは善戦がやっとの戦いだった。そんな中で、コーチ兼任で復帰した7連覇時代の名手・呉成玉の存在は注目される。身体的には全盛期に及ばないが、広い視野で周囲を操る力はさすが。ポストを使った攻撃などに反映されるだろうし、中堅、若手選手の覚醒、成長も促すことだろう。相乗効果で善戦どまりだった試合で勝点を奪えるならば、上位と下位がクッキリ色分けされたレギュラーシーズンも活性化するはずだ。



三重バイオレットアイリス

前回は広島メイプルレッズに1勝2敗とわずかに先行され、5番手に留まったものの着実に地力アップ。上位3強との差を縮めていくのがテーマのシーズンとなる。日本代表の伊藤やG K毛利らに加え、175cmと大型の戎野ら、ルーキーもまじえての戦いとなる今回のリーグ。7月の全日本実業団は司令塔不在が響いて6位に甘んじたものの、その後、引退を表明していた高木（旧姓・橋本）が復帰。まとまりを取り戻したチームに、新任の緒方監督（元ソニー）が味つけを加えるリーグでの戦いで、本領発揮となりそうだ。



H C 名 古 屋

日々の練習も全員参加が難しいといった練習環境など、整備された上位陣とは大きな差があり、第31回大会を最後に、ここ3回のリーグは連続して15戦全敗という厳しい結果が出ている。それでも、スタッフ、セブンの意欲、ファイティングスピリットに陰りは無い。前回、7mスロー阻止率賞に輝いたG K家城など、個々に光る存在もいる。4人のルーキーも加わって、活性化された力を余すところなく発揮してほしいもの。まずは広島メイプルレッズ、三重バイオレットアイリスをターゲットに、4大会ぶりの勝点奪取に全力を注ぐ。



前回準優勝の⑤トヨタ車体・藤田⑥北國銀行・野路良

選手・スタッフ登録情報

◇広島メイプルレッズ

No.10 呉 成玉 1972.10.10 170cm 65kg 右 東邦中（韓国）→東邦高（韓国）→韓国体育大→広島メイプルレッズ→ヒポニーダーエスタライヒ→三陟市庁

◇三重バイオレットアイリス

No.6 高木 寛子 1979.12.25 163cm 55kg 右 茅野東部中→埼玉栄高→東京女子体育大→シャトレゼ

◇豊田合成

No.4 野田 祐希 1988.3.23 174cm 72kg 右 汐路中→愛知高→中京大

◇トヨタ車体

コーチ 坪根 敏宏

※いずれもリーグ開幕より出場可能

第34回日本リーグ表彰一覧

	〈男子〉	〈女子〉
・最高殊勲選手賞	白 元喆 (大同特殊鋼) 3回目	高橋 恵 (ソニーセミコンダクタ九州) 初
・最優秀監督賞	清水 博之 (大同特殊鋼) 3回目	郭 恵静 (ソニーセミコンダクタ九州) 初
・殊勲選手賞	銘苺 淳 (トヨタ車体) 初	横嶋かおる (北國銀行) 初
・得点王	末松 誠 (大同特殊鋼) 107点 3回目	上町 史織 (北國銀行) 135点 2回目
・フィールド得点賞	末松 誠 (大同特殊鋼) 96点 2回目	郭 恵静 (ソニーセミコンダクタ九州) 104点 7回目
・シュート率賞	末松 誠 (大同特殊鋼) 0.691 2回目	高栖 由香 (ソニーセミコンダクタ九州) 0.841 初
・7mスロー得点賞	銘苺 淳 (トヨタ車体) 28点 初	上町 史織 (北國銀行) 44点 2回目
・7mスロー阻止率賞	坪根 敏宏 (トヨタ車体) 0.529 (9/17) 初	家城 千香 (HC名古屋) 0.485 (16/33) 初
・最優秀選手賞	末松 誠 (大同特殊鋼) 3回目	上町 史織 (北國銀行) 2回目
・最優秀新人賞	谷村 遼太 (湧永製薬) 初	高橋 恵 (ソニーセミコンダクタ九州) 初
・ベストセブン	GK 高木 尚 (大同特殊鋼) 3回目 CP 門山 哲也 (トヨタ車体) 初 末松 誠 (大同特殊鋼) 3回目 東長濱秀作 (湧永製薬) 初 白 元喆 (大同特殊鋼) 7回目 村上 秀行 (トヨタ紡織九州) 2回目 豊田 賢治 (大崎電気) 4回目 武田 享 (大同特殊鋼) 2回目	GK 田代ひろみ (北國銀行) 2回目 CP 洪 廷昊 (オムロン) 3回目 高橋 恵 (ソニーセミコンダクタ九州) 初 横嶋かおる (北國銀行) 3回目 上町 史織 (北國銀行) 3回目 藤井 紫緒 (オムロン) 初 城内 真紀 (オムロン) 2回目 中村 香理 (北國銀行) 初
・ベストディフェンダー賞	トヨタ車体 91点/14試合 (6.5点/試合)	HC名古屋 74点/15試合 (4.9点/試合)
・フェアプレー賞 (審判表彰)		
・最優秀レフェリー賞	池淵 智一・檜崎 潔	・最優秀新人レフェリー賞 本田 昭太・田淵 元雄

第34回 日本リーグプレーオフ成績

男子・プレーオフ成績

大同特殊鋼 (通算1位)	36		
トヨタ紡織九州 (通算4位)	32	38	優勝 大同特殊鋼
湧永製薬 (通算3位)	21	37	(5年連続14回目)
トヨタ車体 (通算2位)	22		

〈男子順位〉

- 1位 大同特殊鋼
- 2位 トヨタ車体
- 3位 湧永製薬
- 4位 トヨタ紡織九州

女子・プレーオフ成績

北國銀行 (通算1位)	24	25	優勝 ソニーセミコンダクタ九州
オムロン (通算2位)	18		(初)
ソニーセミコンダクタ九州 (通算3位)	22		

〈女子順位〉

- 1位 ソニーセミコンダクタ九州
- 2位 北國銀行
- 3位 オムロン

レギュラーシーズン結果

男 子	勝	分	敗	勝点	得点	失点	差	女 子	勝	分	敗	勝点	得点	失点	差
① 大同特殊鋼	12	1	1	25	468	335	133	① 北國銀行	12	1	2	25	427	323	104
② トヨタ車体	10	1	3	21	419	360	59	② オムロン	12	1	2	25	448	289	159
③ 湧永製薬	9	1	4	19	435	349	86	③ ソニーセミコンダクタ九州	11	0	4	22	484	382	102
④ トヨタ紡織九州	8	2	4	18	430	382	48	④ 広島メイプルレッズ	5	0	10	10	368	424	-56
⑤ 大崎電気	8	1	5	17	398	350	48	⑤ 三重バイオレットアイリス	4	0	11	8	333	363	-30
⑥ 豊田合成	2	2	10	6	313	468	-155	⑥ HC名古屋	0	0	15	0	233	512	-279
⑦ 琉球コラソン	2	1	11	5	357	448	-91								
⑧ 北陸電力	0	1	13	1	294	422	-128								

※順位はレギュラーシーズン終了時
男子1～4位、女子1～3位の順位はプレーオフで決定
女子1～2位は対戦間得失点差による

…日本リーグのホットな情報をどうぞ…

★ナマ情報をインターネットで画像とともに……★

○日本ハンドボールリーグの公式ホームページをご覧ください。

アドレス <http://www.jhl.handball.jp/>

iモード版 <http://www.jhl.handball.jp/i/>

日本ハンドボールリーグ委員会 (TEL03-3481-2494・FAX03-3481-2367)